

## 2級 【パターン】傾向と対策

### 1. 作図・パターン展開

#### <身頃・ポケット>

・課題のシルエットは、3面構成のパネルラインのジャケットである。原型のバストダーツを衿ぐり・袖ぐりに適正量分散し、残りのダーツをマニピュレーションするが、衿ぐり・袖ぐりへの分散が適正でないものや、マニピュレーションがされておらず、前肩ダーツが残っていた作図があった。

・構造線が違っているものや前切り替え線の位置が不適切なパターンも見受けられた。3面構成ジャケットと4面構成ジャケットの構造の違いを理解しておく必要がある。

・後ろ肩線などいせが入る部分の合い印が抜けているもの、合い印はあるが、線に対して直角に入っておらず、合い印が合わないものなどがあった。いせを入れる部分の前後、縫い止まり位置、ウエストやネックポイントの位置など、ポイントになる部分には合い印を適切に入れること。

・ウエストライン付近で線が角張っているものがあった。本来はスムーズな線であらなければならない。

・裾のライン修正がされておらず、接ぎ部分の裾が角になっているものもあった。

・肩幅に対して背幅が狭いなど、肩幅と背幅の関係が不適切なものがあった。肩幅と背幅の関係が不適切であるとアームホールの形状を崩し、結果的に袖のシルエットも崩れてしまうので、注意をすること。

・展開線が記入された原型や、あらかじめ肩パッド分やジャケットのゆとり分が展開されている原型、使用不可の袖原型等を誤って持参した受験者がいたが、原型を準備する際には注意をすること。

#### <ラペルと衿>

・課題のデザインはノッチドラペルで、上衿・ラペルともベーシックなデザインであるが、ラペル幅や衿幅が極端に広いものや、きざみが深すぎるものなど、デザインを読み取るところまで至っていないものがあった。

・衿の製図方法はさまざまあるが、後ろ中心での衿腰と衿幅の関係、衿付け線と衿の外回りの関係が悪いために、減点されたものがあった。

#### <袖>

・袖の製図にはさまざまな方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山が低すぎたり高すぎたり、袖幅が狭すぎたり広すぎたりするもの、さらに、袖山のいせ分量が少なすぎたり多すぎたり、袖山の形状の不自然なものが目立った。

## 2. 提出用ファーストパターン

・ファーストパターンは作図パターンを別紙に、別々にトレースして、名称・記号・合い印など、必要な事項を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。ただし、フラットパターンメイキングの場合は、原型を使用した作図の添付が必要である。

・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状や、つながりが縫製時を設定して考えられていることも大切である。作図後にパターンをトレースし、ラインの形状・つながりを確認し、必要事項を書き込んでファーストパターンを完成させるが、時間的に余裕がなく、展開作図に名称・記号を記入し、ファーストパターンとしているものもあった。また、鉛筆の線が一定の太さと濃さで描かれていることも重要である。線が蛇行しているものなど、2級の完成度に達しないものが多かったと思われる。

・課題に設定された着丈・袖丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印（縫い止まり・明き見せ止まり）・ボタンなどが記入されていること。さらに、見返し線の描き忘れには注意していただきたい。また必要なパターンや作図が全て揃っていること。特に、ポケットなどパーツパターンの描き忘れや、提出物として作図や展開図も全て揃っているか、最終確認を確実にこなっていただきたい。